

清武英利 著

きよたけ・ひでとし 50  
年生まれ。元巨人球団代表。  
ノンフィクション作家

ルゲイン（株や不動産などの売却利益）課税を回避するために、永住権をカネで買い、シンガポールで暮らす者もいる。

数十億から数百億円の資産を保有し、最高級住宅に住む彼らは、プールサイドで読書し、ジムに通い、高級車を乗り回しているが、ありあまる時間に退屈し、必ずしも幸福とはいえない。家族は日本の方が良くとさっさと帰国し、家庭が崩壊する例もある。

昨今、貧困と格差が拡大する一方、アベノミクスはバブルを膨張させ、ハイリスクハイリターンのカジノ型金融ビジネスが推奨される。純金融資産を1億円以上保有する富裕層は200万人を上回る。書店の店頭ではFX（外国通貨を売買する金融商品）取引などが、ネットを利用する若者たちを誘っている。本書は、そのような風潮に警鐘を乱打しているようである。

評者 山田博文 群馬大学名誉教授

庵 功男 著

本のタイトル「やさしい」には「易しい」と「優しい」という2つの意味が含まれている。

前者は日本語を母語としない人であっても使えるような簡単な、という意味合いでの「やさしい」。後者は「外国にルーツを持つ」人々、すなわち、日本語を母語としない人、あるいは、日本語を母語としていても、何らかの障害のために、母語の習得に困難がある人にとって「優しい」という意味合いでの「やさしい」である。このことでもわかるが、本書の筆者は行き届いた目をもっている。

本書には「やさしい日本語」という表現が繰り返し使われているが、本書を読んでいるうちに、後者の意味合いでの「やさしい」気持ちになっってくる、そんな不思議な魅



岩波新書・840円

## 易しく優しく行き届いた視点で

力をもった本でもある。ここでは紹介しきれないが、日本が移民をきちんと受け入れるべきだということも多角的に述べられており、現代日本社会に目配りがきいていて、そうした「現実」をふまえた上で、将来をみすえている点も高く評価できる。

特に、日本語を母語としない人が使う（母語話者からみれば十全ではないように感じる）日本語に慣れ、その地点に歩み寄ることが大事だという著者の主張は同感で、それを超えて「尊い」といってよい。そうすることによって、母語話者の日本語にも結局は磨きがかかるのだという著者の主張には同感だ。

また前者の意味合いでの「易しい」日本語についてもきわめて具体的に分析されていて、随所に有益な問題提起がなされている。日本語に興味のある人にはおすすぬめしい一冊だ。

評者 今野真二 清泉女子大学教授

「欧米では書体の作者の事典まであるのに、日本ではデザイナーの存在が知られないまま忘れられてしま

など美しく仕上げる作業に1文字1時間かかります。「見出しや看板を目立たせるための文字とは違い、

定点観読

青原 康正